





いました。でも、老人や施設の人が一生けん命やっているのを見て、私も勇気をふりしほってやってみました。すると、とても楽しくなって、気持ちいいなあと思いました。

私はこういうことを見て、施設で働いている人は、老人のために一生けん命がんばっていることが分かりました。

また施設にいるおじいさんおばあさん達からはみんなに迷わくをかけたくない、長生きしたい、残りの人生を楽しく生きたいと考え、一生けん命生きようとしていることが伝わってきました。

私も大人になったら、力いっぱい生きる人になりたいです。また、人に勇気をあたえる人になりたいです。そのためには、自分が勇気をふりしほっているいろいろなことに挑戦し、人に感動を与えたいと思います。

のできる、母の仕事にとても興味があり、私も老人保健施設で働いてみようと思うようになりまし

### 私にとつての人間関係

泉中学校三年

山下 貴美



になぜ私だけいつも一人なんだろう…。いつもいつもそれだけを考えていました。しかし、答えは見つかりませんでした。時だけが刻々と流れていくのを感じていました。この状態から脱出するとは永遠にないのかとさえ思いうろ、孤独を味わっていました。妹のプリクラ帳には友達と一緒に撮ったプリクラが増えています。一度はそのことで悩んだことがあるのではないかと

みなさんは人間関係のことで悩んだことはありますか。多くの人は、一度はそのことで悩んだことがあるのではないかと

と関係に悩むことがあります。自分一人では解決できないことが多くあります。特に忘れられることが多くあります。自分の生き方に影響を与えている出来事を、今日、自分は語って、心の解放を得たいと思います。

とを思うようになり、自殺まで考えたこともありましたが、手首にカッターをあて、自分に「さようなら」と言おうとしたら、私は自殺をするつもりでできませんでした。それは死ぬのが怖いというより私の心の奥底に「生きたい」と強く願っていた自分がいたことに気が付いたからです。それからは自分を頼りに前向きに物事を考えようと努力するように少しずつなりました。と同時に、あることを思い出していました。私は、小学生の時、多くのことから悪口を言われたり、そう言われる前まで、仲の良かった子から、さげられたりしたことをです。その嫌な体験は半年ほど続きました。すぎ去つてみると、みんなは何事もなかったかのように生活していたのが印象に残っています。その時の心の傷が、人間関係で悩む私をつくり出したのではと考えると、私に嫌われるのを異常なほど恐れ、人とあまり普通にはしゃべらなくなつてしまつていたので、自分自身をみつめていました。人間関係に悩むのも、

私自身が、自分を大切にすることを、消極的になりすぎたのではないかと考えたのです。私はこの性格を変えていくことで、もしかしたら、重く、苦しい生活から逃れられるのではないかと考えました。自分を簡単なことではありませぬ。しかし、このままではいけないし、嫌だったので私は必死に努力しました。自分から人に話をするように少しずつなりました。と同時に、あることを思い出していました。私は、小学生の時、多くのことから悪口を言われたり、そう言われる前まで、仲の良かった子から、さげられたりしたことをです。その嫌な体験は半年ほど続きました。すぎ去つてみると、みんなは何事もなかったかのように生活していたのが印象に残っています。その時の心の傷が、人間関係で悩む私をつくり出したのではと考えると、私に嫌われるのを異常なほど恐れ、人とあまり普通にはしゃべらなくなつてしまつていたので、自分自身をみつめていました。人間関係に悩むのも、

させるものだということや、生きていく上で大切なことでもあるということも知りました。だからひきこもつたり、人間関係で悩んでいる人は、私の声に耳を傾けてみて下さい。自分から逃げないで。鏡を見て自分と向き合つて語りあってみて。

### 全校・生徒会の先頭に立つって思ふこと

泉中学校三年

森 正孝



自分が望んでいるものがみえてくるはず。その時に自分だけでなく、その周りに目を向けて下さい。きつと、支えてくれる人

僕は今、生徒会執行部として、九人の仲間と共に活動を行っています。僕の今の役職は、「生徒会長」です。だから、生徒会執行部のリーダーとしても全校の先頭に立つて動くことが、僕の義務・責務です。

今までの僕を振り返ると、学級委員長や学年委員

つもいてくれたので頑張ることができたのです。実は、昨年度の二、三月頃、僕は前期生徒会長に立候補しようかしまいか悩み悩んでいました。その理由は、やはり「全校のリーダー、生徒会をしっかりとめ上げることが出来るか」「自分が生徒会長という役に押し潰されないか」などの思いを持ったからです。しかし、「生徒会長、生徒会執行部に就いて全校、学年、学級のために動きたいなあ」という意志もあつたし、先生方の後押しや仲間からの応援により、僕は「生徒会長」に立候補することを決断し、今現在に至っています。悩んだだけで、実際になってみると、生徒会執行部のやる気のある九人の仲間

動としては、前期の対面式や所信表明の演説集会の準備、体育大会の挨拶や準備などの行事での動き、全校集会やメイン活動へ向けての動きなど様々ですが、常にいつも行い意識していることが、全体指示と確認・評価です。また、僕の役割としても一つやるべきことが、生徒会執行部をまとめ上げることです。しかし、実際はこの九人の仲間

に泉中学校の向上と前進を目指して歩んでいきたいです。僕は、この「生徒会長」という役割に立候補したことに、今まであまり泉中学校の細かいことが把握できなかった自分ではなくなり、泉中学校のために動こうとする思いが強くなってきました。そして、生徒会長に任命された時から、「何が自分にできるだろうか」などと、たくさんの方を長時間考えるようになり、より一層僕のこの泉中学校に掛ける思い、そして生徒会に掛ける思いが深まりました。学級や学年の先頭に立つてきた僕が、学校や全校・生徒会の生徒会に立つようになり、新しい自分が生まれ、

### 私の大切な友達

土岐北高校二年

伊東 麻 弥



皆さんには「親友」と呼べる人がいますか。私にはいません。でも高校生になるまで、私に親友と呼べる存在がいませんでした。

私の中学生時代、私から見た学校生活はいわゆる「荒れた」ものに見えま

いた。強い人と弱い人がいて、強い人が弱い人をいじめた。そんな光景が毎日のようにありました。

私自身、弱い立場の人をいじめていた事があります。でもそれは「自分と性格が合わないから」という理由とは限りませんでした。友達と

思っています。ある時、私の友達で、万引きをした子がいました。私はそれを、止めることができませんでした。

私には勇気がなかったから。その子は結局学校を退学することになってしまいました。私がちゃんと言った。私が一言言っていたら、その子は退学する必要もなかったでしょう。それを私は後悔しました。でも、今

その子はちゃんとした生活を送って自分のやったことの罪の重さを理解し、真面目にアルバイトをしています。彼女は今私にとつてすごくかけがえのない友達です。そして私にとつての目標でもあります。

私が今考える親友とは何か。嫌な事や嬉しいことを共に解り合い、何でも心から話し合うことができる友達。そしてダメだと思ったことはダメだと、自分の意見をはっきり伝えられる事ができる関係。それが親友だと思います。高校生になった今、私には大切な親友が一杯います。一緒に笑ったり、泣いたり色々あるけれど心から解り合えていると思える存在です。以前の私なら、そんな友達にも自分の意見をちゃんと伝えることができなかったでしょう。でも今ならばしっかりと伝えることができます。「大切」って思っているからこそ、ダメならダメって言うべきだから。それがその人のためにもなるし、自分のためにもなると思います。これからは、いろいろなことがあると思います。でも一言の文句もぐちも言いませんでした。そんな父の姿を思い出すと、

思った。でも少し寂しい気持ちがありました。家に家族が、僕と母の二人だけになってしまったからです。兄が東京に行つてから、家の中はとても静かになりました。母もそれから少し元気をなくしているような感じがします。でも兄がいなくなった今、僕がしっかりと母親を助けていきたいです。そして母のためにいろいろしてあげて、少しでも母に楽してもらいたいのです。

### 父の遺言

土岐北高校二年

久野 遠 平



僕の親は、今は母親だけです。父は僕が中学2年生の時、ガンで亡くなりました。その時は、すごく泣きました。そしてすごく悲しかった。父が生きていた間に、僕は父に何にもしてあげられなかった。迷惑ばかりかけていた。僕はそれをすごく後悔しました。

父は病気になる前から亡くなるまで、僕達家族に何一つ迷惑をかけませんでした。本当はガンで苦しかったはずですが、ずっと病院にいて、イライラすることもあつたはずですが、でも父は、僕にも母にも一言の文句もぐちも言いませんでした。そんな父の姿を思い出すと、

今でも涙が出てきます。そんな父が、亡くなる前に、家族のことを心配して遺言を残してくれました。僕には兄が一人います。その兄と母と僕の3人が、父が亡くなった後どうやって生きていくべきか。父の遺言はそのことを教えてくれるものでした。父は僕の事をこう書いていました。「お前は優しい子だ。友達の事をいつも思っている。それはとてもいい事だ。ただし、友達がやることをなんでも許してしまうというのは良くないことだ。時には友達のために、真剣に怒ることも大切だ。」そして最後に、「お母さんのことをよろしく。」と書いてありました。この遺言を見た時、僕は本当に泣きました。と同時に、父は本当にすごい人だと思えました。

兄は今年の春、東京の消防士に受かりました。兄は大変喜んで、この4月に東京に行きました。僕も心から喜んであげた

今、僕は父を目標にして生きています。今どきの高校生が親を目標にするのは、あんまりカッコよくないかもしれませんが、僕は父みたいになりたい人になりたいと思っています。母を元気にしてあげたい。父の残した遺言をやりとげたいです。それが僕にできる、亡き父への親孝行になるから。今から頑張つて生きていこうと思っています。

